椰子の樹

長野県ニューギニア会 会報

第34号

令和6年1月1日発行
長野県諏訪郡富士見町落合
発行人　小池博之
印　刷　杏花印刷

東部ニューギニア方面慰霊巡拝団
ウエワク平和公園で「全戦没者合同慰霊祭挙行」
（令和５年10月29日）

ニューギニア戦没者の碑

国が、ウエワク市に建立した戦没者慰霊公園。ニューギニア島及びその周辺海・空域で戦没した18万余の将兵の霊を慰め、恒久平和を祈念するため、同国政府の協力を得て昭和56年9月に建設された。

ウエワク半島と阿部の岬を望む海岸沿い、約五千㎡の苑地には、現地の民家をモチーフにした東家風の礼拝堂の中に、「戦没者の碑」が安置されている。堂の正面には大きな池を挟んで、二基の石灯篭が供えられているが、これは本会が寄付奉納した。

謹賀新年　新年のごあいさつ

長野県ニューギニア会　会長　小池博之

明けましておめでとうございます。

皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと存じます。新しい年のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

本年は終戦から79年を迎えます。今日の平和が戦没者の尊い犠牲の上に築かれたものであることを忘れることなく、私たちは世代を越えて、過去の歴史に向き合わなければなりません。

さて、昨年の本会事業は、コロナ禍が収束する中で夏の慰霊大祭と、現地慰霊巡拝団派遣を実施いたしました。護國神社での慰霊大祭には、ご来賓を含め五十余名が参加して厳粛に斎行。あわせて臨時総会を開催しました。現地慰霊巡拝団派遣は、日本遺族会の慰霊友好親善事業に参画して、東部ニューギニア方面に10月25日から8日間の日程で実施、三名の会員が参加いたしました。

本会が管理するウエワク郊外のコイキン観音立像に関しては、地権者の消息が依然不明で、携帯電話やメールでの連絡も取れない状態で、今後問題再発の場合、これまでお世話になっているポートモレスビーの富田辰朗さんに、現地での対応をお願いする事と致しました。

昨年の総会において監査委員会から「会の存続と当面の課題への取り組み」等が提起されました。

○護國神社境内「嗚呼戦友の碑」の維持管理
○会員の減少等による財源の確保
○権利なき社団としての今後の在り方

等につきまして本年も引き続き真摯に取り組んでまいります。

なお、本会の活動に対して賛同し、寄付金をお寄せ頂いた皆様に御礼申し上げます。昨年は、七名の皆様から16万円を超えるこれまでにない多額のご芳志金を頂戴いたしたことをご報告いたします。

PNGの花・鳥　ブーゲンビリア

鮮やかな色彩で南国の雰囲気を演出するブーゲンビリア。「情熱」「あなたしか見えない」などの情熱的な花言葉がよく似合う花。オシロイバナ科の熱帯性の低木で、和名イカダカズラ。原産地は中央アメリカ、及び南アフリカ。花の色は赤から白まで変化に富み、ピンクやマゼンタ、紫など多様。

美しい色が目立つ花ですが、花びらに見える部分は花を取り巻く葉（包葉）で、通常は3から6枚、PNGでは高地を除き熱帯雨林地帯で見られる。

ウエワク半島の海岸沿いに咲き誇るブーゲンビリア

東部ニューギニア
ウエワク・ラエ方面

現地慰霊巡拝４年ぶり再開

父の眠る地で冥福を祈る
国の慰霊友好親善事業に参画

コロナ禍のため中断されていた、戦没者遺児による慰霊友好親善事業が再開され、東部ニューギニア方面は10月25日から11月1日の期間で実施した。

本会はこの事業に参画して、小池会長ら3名の会員を派遣した。今回から国の補助対象となる孫、ひ孫世代が付き添いとして認められ、現地で遺児と共に戦没者の足跡を辿り、国の礎となられた御霊の冥福を祈った。

安斎満日本遺族会常務理事を総括団長とする東部ニューギニア慰霊親善友好訪問団（団員22人）は、フィリピン・マニラ経由でポートモレスビーに入り、A班は、マグエル、ボイキン、ウオム岬、ウエワクにて慰霊祭を行い、亡き父の冥福を祈った。B班はチャーター機でフィシュハーヘン上空を旋回しながら遥拝、亡き父への思いを馳せ、ラエとウエワクで慰霊祭を行い霊前に積年の思いを語りかけた。

また、A班はウエワクのカラン病院へ、B班はラエのヘルスセンターへ車椅子を寄贈。ボイキンとラエの小学校を訪問し、日本から持参した学用品を贈呈、児童達と交流して友好を深めた。

29日は、ウエワクの「ニューギニア戦没者の碑」で全戦没者追悼式を挙行した。30日、ポートモレスビーに移動、在PNG日本大使館との懇談会では、渡辺信之大使始め館員と歓談した。

全戦没者追悼式に参列した会員
左から小池会長、山岸幸子さん、山岸慶介さん

ムッシュ島を望む海岸での個人慰霊祭（ボイキン・ソナム方面）

全戦没者追悼式会場（ウエワク）南国の花や果物で飾られた祭壇

カラン病院へ車椅子を贈呈する（ウエワク）

小学校の児童と交流会
学用品や運動具を贈り、歓迎を受けた（ボイキン）

PNG・日本大使館員との交流会
現地の民族踊り（シンシン）が披露された（ポートモレスビー）

国会議事堂前に建設された高規格道路（ポートモレスビー）

PNGのラエに新たな空の玄関口

ナザブ・トモダチ国際空港開港

日本との友好を象徴「TOMODATI（友達）」と命名

パプアニューギニア第二の都市郊外にあるナザブ空港の全面リニューアル工事が終わり「ナザブ・トモダチ国際空港」として運用を開始した。

空港名は日本とニューギニアの友好を象徴して「TOMODATI（友達）」が付けられた。このプロジェクトは日本の有償資金協力事業として、平成27年から267億円を投入して進められ、昨年10月2日開港式が行われた。

新しい国内線及び国際線ターミナルビルと施設は、大型ジェットを収容し、首都のポートモレスビー（ジャクソンズ）国際空港の代替空港としても機能することから、国内外の旅客、貨物の新しい拠点として戦略的に位置付けられている。

新設された旅客ターミナル全景

ニューギニア本島は東西に最高峰4千メートル級を擁する稜線からなる急峻な地形で、幹線道路の整備が遅れていることもあり、航空輸送は国民の移動に重要な役割を担っている。今回の事業ではターミナルビルの新設、滑走路の延長、駐機場の拡張、航空管制、保安設備の拡充など国際空港企画に整備された。

昨年10月の開港式典では、同国のマラペ首相はじめ多くの閣僚、日本から堀井外務副大臣、渡辺駐在大使が出席。マラペ首相が日本に対する熱い信頼と感謝に応え「TOMODATI国際空港」と、命名した。

海軍が建設ラエの飛行場

日本軍のラエへの進出は昭和17年3月のこと、海軍陸戦隊が上陸し飛行場を建設した。連合軍の侵攻が強まった18年9月、軍司令部は、51師団に対して撤退命令を発した。

約8千人の将兵は人跡未踏のサラワケット山脈に挑み、山中で3千名が倒れる死の転進となった。

コイキン観音様の現状

現地慰霊巡拝で小池会長対応

本会が管理するウエワクのコイキン観音様の維持管理問題に関し、昨年11月、小池会長は日本遺族会の東部ニューギニア慰霊団の一員として現地を訪問した際、関係者と接触して対応した。

ウエワクの土地所有者とは面会できなかったが、これまでこの件でお世話になっているポートモレスビーの大黒レストラン・富田辰朗社長から現地の状況について詳しい説明を受けた。

富田さんは昨年6月、ウエワクを訪問した際、コイキン観音へお参りしながら現地の状況を確認した。それによると「雨期の末期で下草は伸びていましたが、観音様の周辺や記念柱周辺は比較的整備されており、地主は不在でしたので確認写真を撮影してきました」と現況を説明した。

観音像敷地内は比較的よく整備されていた。昭和55年8月建立以来43年が経過、周辺の樹木は大きく成長している。
富田辰朗さん撮影

長野県ニューギニア会への 賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せて頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。

皆様から頂いたご芳志は、現地慰霊や友好親善、遺骨収集活動に活用させていただきます。

寄付者ご芳名

丸山　芳邦様（長野市）
五月日輝雄様（木祖村）
竹村　淳　様（長野市）
松森　良造様（栃木県）
山岸　幸子様（東京都）
瀬在今朝冬様（千曲市）
小池　博之様（富士見町）

本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒今後ともご賛同頂きますようお願い申し上げます。

第55回 ニューギニア方面 戦没者慰霊大祭斎行

長野県ニューギニア会主催第55回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭は、令和5年7月30日松本市の長野県護國神社において厳粛に斎行された。

新型コロナ禍のため、三年間に渡り参加人員の制限など感染法上の規制が緩和されたことから、従来の式典規模に戻してご案内をしたところ、国会議員、県会議員の皆さま、松本市長、県遺族会代表などご来賓を含め五十余名のご参列をいただいた。

慰霊祭は午後1時、気温35度の猛暑日の中、神社本殿において大太鼓の合図で始まり英霊に黙祷、国歌演奏、修祓と続き、奥谷宮司により祝詞奏上。続いて本会代表、小池会長による祭文（別掲）の奏上がなされた。ついで臥雲松本市長（代理）、池内県遺族会副会長が慰霊の言葉を述べた。また、来賓を代表して井出庸生文部科学副大臣が挨拶。そして、来賓および本会代表による玉串奉奠とつづいた。

臨時総会開催 会則の一部改定を承認

慰霊祭終了後、美須々会館において臨時総会を開催、会則の一部改正について審議、原案どおり可決承認された。

小池会長は提案説明で「定期総会は毎年2月の建国記念日に開催していたが、次年度から7月の慰霊大祭に合わせ開き、会計年度も変更したい」と説明。これに伴い会則の一部が変更された。

慰霊祭と総会の同時開催により、必要経費の削減を図り、会員も気軽に総会に参加できるなど相乗効果が期待される。

戦没者慰霊大祭　祭文（抜粋）

本日ここに「第55回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭」を挙行するにあたり、南方遥か五千キロの地で散華された3474柱のご英霊に謹んで祭文を奏上いたします。

本日は、熱帯のかの地を思わせる酷暑の中、ここ護國神社の社頭にて、霊前に額づき在りし日を偲ぶとき、今なお新たな悲しみと痛恨の念を禁じえません。私ども遺児のほとんどが、80歳を超えましたが、父への尊崇と追慕の気持ちはいささかも変わることはありません。

我が国は、戦後これまで78年間、一度も戦争をせず平和を享受してきました。世界の多くの国や地域では、悲惨な戦争や紛争が多発し今も繰り広げられており、恒久平和への道のりの厳しさを痛感しています。

結びに、今日の、平穏な日常生活を享受できますことは、戦没者諸霊の尊い犠牲の上に築かれたものであり、あらためて御霊に尊崇の誠を捧げ、感謝の意を表して、祭文といたします。

令和5年7月30日

長野県ニューギニア会　会長　小池博之

第71回 長野県戦没者追悼式 参加報告

第71回長野県戦没者追悼式は松本市のキッセイ文化ホールで、10月21日開催された。コロナ感染症の法的規制緩和に伴う初の開催となり、県内の市町村から六百余名の遺族代表が参加した。

本年も地元大学生（信大と松本大学）が進行を行い、平和へのメッセージの発表など、運営に協力した。

式典で阿部知事は「今日私たちが享受している平和と繁栄は、戦没者の尊い犠牲のうえに築かれたものであり、決して忘れてはなりません。

現下の世界情勢を見るにつけ、未だ耐えない地域紛争やテロに、多くの尊い命が犠牲になっています。戦争の惨禍を二度と繰り返さないとの強い決意のもと、世界の恒久平和実現に向け、多くの国々と友好交流を一層推進して参ります」と、決意を述べた。

先の大戦で戦没した六千四百余柱の英霊に黙祷を捧げ、県議会議長、市町村会長、栗生県遺族会長らが追悼のことばを奏上、最後に、来賓や遺族代表が祭壇に向かい献花して式典を終了した。

「追悼の詞」を奏上する栗生県遺族会長

事務局から

▽松本市において開催された第71回長野県遺族大会（10・20）において、次の本会副会長の方々が、栄えある賞を授与されました。

＊長野県知事賞
長田健治さん（長野市）

＊長野県遺族会長賞
安川叡春さん（佐久市）

▽本年度、新規入会された会員をご紹介します。

・近藤津多子様（飯田市）

椰子の実

★年末年始はいかがお過ごしですか。歌ったり踊ったりのテレビ、買わなきゃ損だとカニやお節料理のCM。チャンネルを替えればウクライナ攻防の悲報。世界地図でガザの場所を探すのに苦労。遺体の目印にと子供の腕にマークする、この地で毎日百数十人生まれているとか★当会での明るいニュースで四年ぶりに東部PNGへの慰霊巡拝が実現したこと、ご苦労さまでした。かつて巡拝に参加した筆者。カメラ、フィルム、録音機材等々自前の準備に一苦労したのも今は昔…★慰霊旅行の報告でPNGの匂いを久しぶりに思い出した。密林中の爆撃機の残骸はどうしただろうか。現地の学童たちも大人になって働き盛り、お土産を覚えていてくれるかな？学園都市のラエにわが国との友好が象徴された名称の国際空港ができたとかうれしい話★現地巡拝、慰霊大祭、諸々の行事や運営を今日の実情に合わせて見直し、会の継続、さらには発展を期待する改革が必至の現状。皆様方のご支援、ご協力を願っています。筆者は94歳、今年も頑張ります。インフルエンザにもどうぞご注意を。（竹村）